

長野県におけるチャセンシダ属種間雑種の産地 及びその識別について

大 塚 孝 一

K. Otsuka; On the locality and discrimination of the hybrid of *Asplenium* in Nagano Prefecture

1. はじめに

長野県産チャセンシダ属には、13種 1変種 3雑種のシダが知られている(大塚, 1987)。3雑種はそれぞれクモノスダを片親とする、トラノオシダとの雑種であるヤマドリトラノオ *Asplenium* × *kobayashii* と、イワトラノオとの雑種であるクモイワトラノオ *A.* × *akaishiense* と、コバノヒノキシダとの雑種であるイセザキトラノオ *A.* × *kitazawae* である。

ヤマドリトラノオは、1967年に志村義雄により南信濃村遠山谷で採集され、長野県では初めて記録された(志村・杉野, 1968)。クモイワトラノオは、1976年に長谷村小瀬戸峠をタイプロカリティーとして記載されたものである(大塚, 1977)。イセザキトラノオは、1986年に佐久市から採集され、長野県では初めて記録されたものである(大塚, 1987)。なお、佐久市からは同時にヤマドリトラノオとクモイワトラノオも採集され、各々、長野県では第二の産地となるものである。クモイワトラノオは量的にも多い。

これら3雑種については、採集例が少ないこともあり、また、形態的によく似ていることもあって、今日まで正確に同定されておらず、混同されがちであった。ここでは、これら3雑種の特徴を述べ、識別点を明らかにしていきたい。

2. 長野県に産する種類と産地

(1) ヤマドリトラノオ

(クモノスダ × トラノオシダ)

Asplenium × *kobayashii* Tagawa

産地: 南信濃村遠山谷, 佐久市岩村田。

(2) クモイワトラノオ

(クモノスダ × イワトラノオ)

Asplenium × *akaishiense* K.Otsuka

産地: 長谷村小瀬戸峠, 佐久市岩村田。

(3) イセザキトラノオ

(クモノスダ × コバノヒノキシダ)

Asplenium × *kitazawae* Kurata et Hutoh

産地: 佐久市岩村田。

3. 3雑種の識別点

ヤマドリトラノオは、トラノオシダの性質を受け継ぐため、葉はやや二形性があり、胞子のう群のつく葉は大きく、直立し、つかない葉は小さく、地面に接して出る。葉身は中部でやや広く、下部で狭くなる。羽片は流れて中軸に翼をつくり、柄がない。最下羽片は扇状となる。葉はやや黄緑色を帯びる。

クモイワトラノオは、葉の二形性がなく、葉身は下部でやや最も広く、上部に向って狭くなり、長く尾状に終わる。葉柄が細長く、下部羽片は一部柄を持つ。

イセザキトラノオは、葉の二形性がなく、葉身は

表 1. 3 雑 種 の 識 別 点

形質	種類	ヤマドリトラノオ	クモイワトラノオ	イセザキトラノオ
葉の大きさ		小～中形(5～30cm程度)	小形(5～10cm程度)	小～中形(5～20cm程度)
葉身の形		葉身の幅は中部で最も広く、下部でやや狭くなる。葉先は細くなるが、尾状になる度合は低い。	葉身の幅は下部で最も広く、葉先は長く尾状に終わる。	葉身の幅は下部で最も広く、葉先は尾状に終わる。
羽片		最下羽片は扇状。 最下羽片に柄が無い。	最下羽片はタ円形で扇状にならない。 最下羽片は時に柄がある。	最下羽片はタ円形で扇状にならない。 最下羽片の柄は顕著。
葉の二形性		有	無	無
葉の色		やや黄緑色	緑色	深緑色
葉の出方		やや直立性	開出する	直立性
胞子		不定形	不定形	不定形

下部羽片が最も広く、上部に向かって狭くなる。クモイワトラノオに似ているが、葉の切込みが深く、葉質はより厚く、葉の色はより緑が濃い。また、葉柄もしっかりしている。

4. 参考文献

志村義雄・杉野孝雄, 1968, 信州遠山川の森林軌道
ぞいのシダ採集記, 植物採集ニュース 3 (34): 70

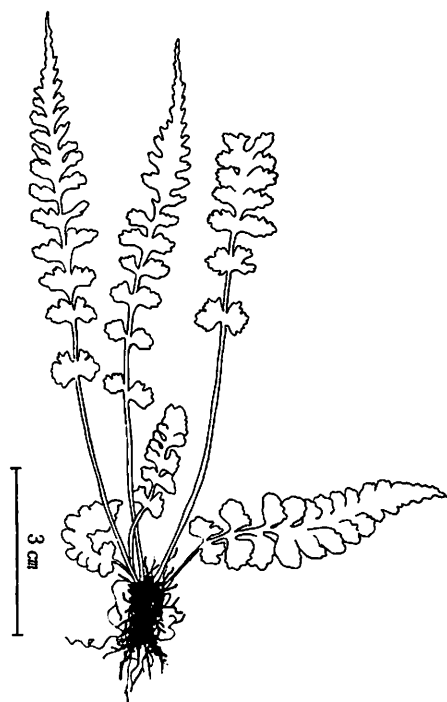


図1 ヤマドリトラノオ
Asplenium x kobayashii

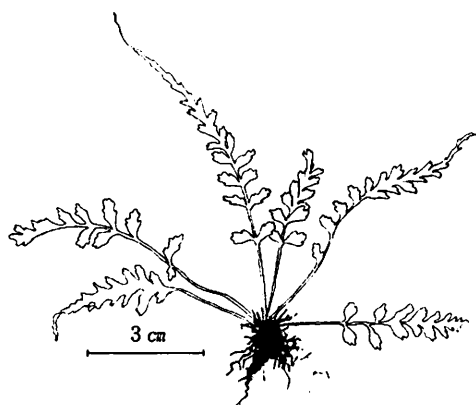


図2 クモイワトラノオ
Asplenium x akaishiense

大塚孝一, 1977, 日本産シダ植物雑録(2), 北陸の
植物 24 (4): 78 - 81

——, 1987, 長野県のシダ植物 160 pp, 信
毎書籍出版センター

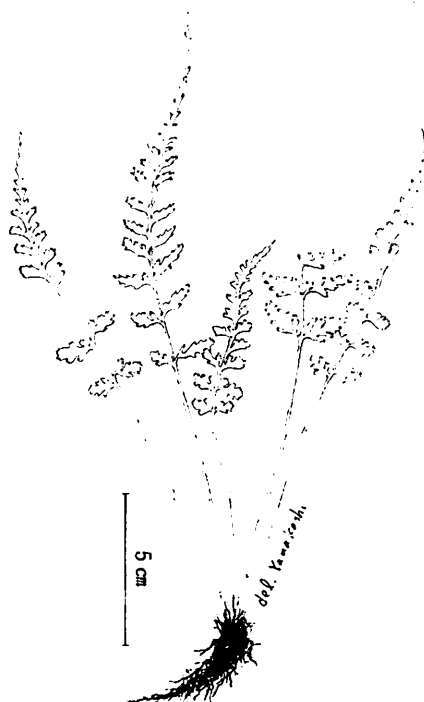


図3 イセザキトラノオ
Asplenium x kitazawae

〔新刊紹介〕 清水建美「検索入門 高原と高山の植物 1, 2」B 6 判, 206 頁, 保育社, 1986 年 7 月, 11 月発行, 各 1,400 円。

同じ保育社から出版された「原色新日本高山植物図鑑 I, II」は, 日本の高山植物図鑑の決定版として, 国の内・外で高い評価を受けている。その同じ著者が, 検索に重点を置き, 写真・解説共に全面的に新しくしたのが, 本「高原と高山の植物」シリーズ全 4 冊である。1986 年には, 2 冊が刊行された。

第 1 冊には, 190 種, 第 2 冊には 204 種が載せられている。判り易い検索表に, 著者のアイディアを取り入れ改良された花式, 花式図が豊富に使用され, 植物の専門用語を余り知らなくても, 野山・高山で自分の足元に生えている花を容易に検索できるよう工夫されている。また, ユニークな点として全ての学名の解説があることは, とかく横文字を敬遠しがちな我々日本人にとって, 学名を覚えようという意欲を起させてくれる。
(H.T.)